

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年 12月 18日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103122		
法人名	社会福祉法人 あと会		
事業所名	グループホーム ダーラナやの・くにくさ		
所在地	広島市安芸区矢野東6丁目9番28号 (電話) 082-889-6668		
自己評価作成日	令和2年11月13日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470103122-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年12月3日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ダーラナやの・くにくさでは、住宅地の中の1軒の家として自治会に加入し、川掃除などの地域活動に参加し近所の方々と交流を持っています。家で過ごすことは難しくても、家族による外出や面会、友人との施設内での交流や外出、在宅でのかかりつけ医を継続するなど在宅に近い環境に近づけることでその人らしく過ごされています。ご利用者は敷地内の庭に自由に入出りでき、屋内でも思うように過ごされています。また、隣接しているデイサービスともボランティア行事などで交流を持っています。法人の医師・看護師による医療のバックアップがあります。医師・看護師と共に健康管理を重視し、日々の体調変化に早期に対応できご利用者・ご家族の安心につながっています。ご利用者・ご家族と日々の中でしっかり話をする機会をもち、ターミナルケアを希望される時は、家族・医師・看護師と密に連携を図り、家族が見守る中でその人らしい最期を迎えられるようケアを行っています。令和2年は新しい生活様式を基に過ごしていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

2階地域交流室で行われる多彩なイベントを通じて沢山の近隣の方々が訪れ、利用者は今まで付き合いのあった人達にも気軽に会う事も出来、地域との関係性を続けている。職員は、一人ひとりの生活歴を知る事に留まらず、今の思いを尊重したケアに関して管理者を中心に話し合いを行い、実践に努めている。法人による医療面でのバックアップがあり、体調面への配慮にも力を入れており、要望があればターミナル期のチームケアにも取り組んでおり、またリハビリ部門から転倒予防等に配慮したアドバイスも得てケアに繋げている。社会福祉法人あと会による基本理念、運営方針、職員を育てる体制など積み重ねられたノウハウを活かし、皆で課題に取り組み、コロナ禍においても、利用者のゆったりとした安心の生活を維持できるよう工夫して取り組んでいる事業所である。

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	法人の理念「3Yのこころ」よるこび、やすらぎ、豊かさ、また事業所スローガン「お一人おひとりの思い、生活リズムを大切に安心した生活を提供します。」を、ミーティング等で共有し、職員の意識統一を図り日常のケアを行っている。コロナウイルス流行に伴い、令和2年2月からは個別に提案を聞く機会を持っている。	利用者と高齢者福祉サービスに携わる全ての人々に向けた法人理念(3Yのこころ)のもとに、事業所スローガンを掲げている。具体的な年間目標も個々に策定し、定期的なミーティングや管理者と共に振り返りを行い、日頃から一人ひとりの利用者の思いと生活リズムを大切にしながら、安心した生活を提供するよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に入り、川掃除等の地域活動に参加している。定期的に地域交流会を行い、ご利用者、地域の方、職員で千羽鶴を折り平和公園へ寄贈した。銭太鼓の創作活動、お茶会を実施し交流を図っていたが、コロナウイルス流行に伴い、令和2年1月からは実施できていない。	長年、事業所内の地域交流室で、千羽鶴折りやお茶会、イベントなどを通じて沢山の方々が出入りし、利用者と共に活発な地域交流が行われてきた。現在はコロナ禍の為、自粛となっている。地域の方々と銭太鼓の発表会を楽しみに、利用者も声を出しながら練習していた例もある。職員は町内の一員として3ヶ月に1回の川掃除への参加を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議において認知症の方の理解や支援の方法をとりあげている。また、近隣の保育園や地域の方々、ボランティアとの交流を持ち、認知症の方たちとふれあう機会を作っていたが、コロナウイルス流行に伴い、令和2年1月からは実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、グループホームの取り組みやご利用者の状況を報告している。また構成員からいただいた意見をミーティング等で話し合い、サービスの向上に活かすよう努めている。コロナウイルス流行に伴い、令和2年3月からは電話で地域の様子等を確認し、書類でグループホーム内の様子等を報告し、9月から会議を再開している。	運営推進会議では、利用者の状況やコロナ禍での事業所方針や取り組みを伝えている。また100歳体操開催の動向に関しての情報を得たり、災害時に活用できるエアマットの紹介や認知症の対応についての質問が出る事もある。現在は書面会議となっている。	より良い運営に活かされるよう運営推進会議が定期的に開催されているが、専門分野や住宅街ならではの立場の方からの参加メンバーを検討され、より活発な意見交換や協議に繋がるよう望みます。また家族への議事録送付により、運営推進会議の関心も増し会議出席やサービス向上に繋がり易くなると期待されます。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者や地域包括支援センター職員に運営推進会議に参加いただいている。また、行政が実施する研修を受け入れている。令和2年度はコロナウイルス流行のため研修受入は行っていない。包括支援センターとは2ヶ月に1度連絡し地域の様子等を確認し、書類でグループホーム内の様子等を報告している。	地域包括支援センターから毎回、運営推進会議への参加がある等、情報交換や書類の提出、或いは地域交流室での100歳体操などについて、平素から連携を取り合っている。事業所は、介護実践リーダーの実地研修の場として行政からの依頼を受け入れたり、認知症サポーター養成講座の講師をするなど協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内で勉強会を通し身体拘束について学んでいる。職員で話し合い、理解、意識統一を図り身体拘束のないケアを実施している。令和2年2月からはコロナウイルス流行の為、合同のミーティングは行っていない。個別に提案を聞く機会を持ち、必要なことを書面等で全職員に伝えるようにしている。	ユニット間は自由に往来できるが、玄関は安全確保の為（現在は感染予防もあり）、施錠している。身体拘束適正化委員会や研修、勉強会を続け実践している。例えば、帰宅願望時の対応に関しても、管理者中心に職員皆が高い意識を持ち、一人ひとりの利用者が安心するケアを工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内での勉強会を通し虐待について学んでいる。話し合いの場を持ち、職員への意識付けを行い、意識の向上、ケアの質の向上に努めている。令和2年2月からはコロナウイルス流行の為、合同のミーティングは行っていない。個別に提案を聞く機会を持ち、必要なことを書面等で全職員に伝えるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所内での勉強会を通し権利擁護に関する制度、成年後見制度について学んでいる。話し合いの場を持ち、職員の理解を深めている。令和2年2月からはコロナウイルス流行の為、合同のミーティングは行っていない。個別に提案を聞く機会を持ち必要なことを書面等で全職員に伝えるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご入居前に事前面接を行い、ご本人、ご家族と十分に話し合い納得のうえ契約をしている。また、解約時や制度の改正時などは丁寧に説明し、理解、納得をさせていただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	法人内に苦情・要望検討委員会を設置しており、ご家族様に満足度アンケートを実施し、結果を運営に活かしている。また、事業所に入り口に意見箱を設置し、ご意見が言えるよう声かけしている。	年1回、法人全体の取り組みとして満足度アンケートを行い、運営に反映させる取り組みが行われている。家族面会時には、自然な会話の中から気持ちや要望を聞いている。例として、現在、月1回家族に送付されている「ダーラナ通信」は、家族からの発案であり、長年に亘り継続されている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1階2階合同のミーティングを実施し職員の意見交換や提案を話し合う機会を設け、運営やケアに活かしていたが、令和2年2月からはコロナウイルス流行の為、合同のミーティングは行っていない。個別に提案を聞く機会を持っている。	管理者は日頃から職員と話し合う機会や意見を聴く雰囲気大切にしている。毎月の合同ミーティングでは各ユニットの取り組みなどの情報交換や調整を行い、意見や提案を検討している。例えば、利用者の動きやすさを考慮し、提案によって、ほり炬燵部分に畳みを敷き空間を広げた例や、時間帯によって支援記録の色を変えた等がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度を取り入れ職員一人ひとりが目標、役割を持ち、やりがいを感じて働けるよう環境作りに努めている。また、目標面接を行い、職員個々の勤務状況の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内に研修制度があり、全職員対象のものや等級や経験年数に合わせた研修を受ける機会を設けている。また、法人外の研修を受ける機会を設け、経験に合わせて受講をすすめるなどしている。令和2年度はコロナウイルス流行の為、大勢が集まる研修には参加しないようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内での職員研修の場などを活用して、他事業所との情報交換を行い、サービスの向上に努めている。また、同業者が参加する研修会に参加し情報交換をしている。令和2年度はコロナウイルス流行の為、大勢が集まる会には参加しないようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用開始前の事前面接でご本人の意向、不安等をお聞きし、個人に合わせたプランを作成して安心感を持っていただけるよう努めている。また、生活歴や生活習慣等をお聞きし、ケアに反映しその方らしい生活が継続できるよう努めている。事前面接は出来るだけ2人で行き、顔見知りになり、入所時に少しでも安心感を持っていただけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用開始前に事前面談を実施し、ご家族の不安や要望をお聞きし、安心していただけるよう努めている。また、ご家族とこまめに情報交換を行い、ご利用者を共に支えていく関係作りに努めている。必要に応じて利用しているサービス事業者と一緒に自宅を訪問し、家族、他事業者と共に入所に向けて話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス利用を開始する段階で、十分に話し合い、状況に応じてサービスが受けられるよう他事業所とも連携をとり、安心して必要なサービスが受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯物、食事の準備などの家事活動やレクリエーション活動など、日々の活動の中にその人その人に合った役割を担っていただいている。必要に応じてサポートを行っている。また、一緒にお茶を飲みながら話をするなど、ゆったりする時間をもち、ご利用者と職員のより良い関係作りに努めている。令和2年2月からはコロナウイルス流行のため個々で出来る活動をしていただいている。また、職員はお茶を飲まれた後に同席し、話をして		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人とご家族の関係が継続できるよう働きかけ、サポートしている。また、ご家族と密に情報交換を行い共に支援できるよう努めている。家族交流会などの活動を実施し、三者の信頼関係の構築を図っていた。家族との外出を入所当初から継続されている方がいる。令和2年2月からはコロナウイルス流行のため家族との交流が少なくなっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人が大切にしてきたものや馴染みの物の情報収集を行い活用している。かかりつけ医や自宅などとの関係を継続し、ご家族や知人が面会に来やすいよう声かけや雰囲気作りに努め、知人の面会が続いている。定期的に電話がかかり友人と交流を持たれている方もいる。令和2年2月からはコロナウイルス流行の為、知人の面会はガラス越しに行っている。	利用者は、知人や友人を事業所に招いたり、通所中の顔馴染みと出会う等の機会を楽しみにしており、職員は再会を楽しめるようにサポートしている。ドライブで馴染みの景色、思い出の桜を観に行く事もある。現在、限られた面会となっているが、庭のベンチ利用やリモート利用など馴染みの人との再会に関して、新たな方法を検討中である。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の性格や認知症のレベルなどに配慮して、家事活動やレクリエーションを行い、より良い関係が築けるよう努めていたが、コロナウイルス流行の為、令和2年2月からは個別のレクリエーションを行うよう配慮している。また、時に職員がご利用者の間に入り、関係の構築や継続のサポートを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了された方や途中退所された方に対し適切なサービス情報を提供するなどの相談に応じている。また契約終了後も運営推進会議交流会等の行事に参加され、地域住民、ボランティアとして関係を継続しているご家族もいる。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者お一人おひとりの思い、意向に添うようコミュニケーションを図り、ケアに繋げている。また、表情やしぐさから様子を読み取ったり、ご家族の意向を伺うなどしてケアに活かしている。	日々の生活の中で、会話・表情・仕草などから思いや望みを把握して「連絡ノート」に記録し共有している。職員間の話し合いや家族からの情報を加味し、ケアプランに繋げている。更にその日の気持ちや状態に合わせて、本人の思いに基づいたプログラムを検討し、穏やかな時間が過ごせるようチームで取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面談時や契約時に生活習慣や生活歴等の情報を提供していただいている。また、関係サービス事業者から情報収集を行い、入居後もご本人やご家族との会話から、その方らしい生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	定期的にモニタリング、アセスメントを実施し、課題分析表や24時間シートを利用し、生活リズム、心身状態、残存機能の把握に努めケアに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画作成時やモニタリング時に関係職員やご本人ご家族と話し合いを行い、課題、意向を検討している。そこで得た情報を介護計画に反映させている。また、ご利用者の状態に合わせて随時カンファレンスを実施し、現状に合わせたプランの見直しを行っている。</p>	<p>計画作成者は担当職員からも情報を得て、アセスメントし、栄養士からの助言や医療情報も加味して介護計画を作成している。話し合い時、伝わり易くする為に大きめの字体にする事もある。個別のファイルの最初のページに短期目標を綴じて日頃のケアに繋げ、3か月毎のモニタリングをしながら現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日勤帯、夜勤帯の職員が個別の記録を記入し、職員がその情報を共有できるようにしている。また、気づきや状態変化などを連絡ノートや申し送りを通じて職員間で伝達、共有し日々のケアや介護計画の作成、見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ご利用者、ご家族のニーズに合わせて外出や野外活動、その他のサービス等柔軟に対応している。また、法人内の他事業所や協力医院と連携を図り、可能な限りニーズに合わせた対応ができるよう努めている。令和2年2月からはコロナウイルス流行の為、外出は中止し、必要時には感染症に気をつけ、対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>近所を散歩したり、地域のスーパーやコンビニを利用し馴染みの関係、環境を作っていくよう努め、また、地域のボランティアや保育園との交流を図っていたが、コロナウイルス流行の為、令和2年2月からは外出や交流を中止している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご利用者、ご家族の希望に合わせて定期的にかかりつけ医の受診、往診を行っている。症状によってはかかりつけ医の紹介で適切な医療機関へ受診できるように連携をとっている。また、法人ドクターの定期回診、訪問看護による定期健康チェックを行い協力関係を築いている。</p>	<p>法人医師を主治医とし、定期的な往診にて体調管理がなされている。要望があれば、これまでのかかりつけ医による訪問診療や家族同伴にてスムーズに受診できるよう支援している。入院時には日課計画表（平素のケアで配慮している点や反応などを記載し、認知症状や体調を分かり易くした表）を渡し、適切な医療を受けられるよう支援がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	法人内の訪問看護と契約をして健康管理をうけている。また、状態の変化時や急変時など随時ご利用者の情報伝達、相談を行い、適切な助言や受診、看護が受けられるよう連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にご利用者、ご家族が安心して入院治療が受けられるよう医療機関に情報提供をしている。また、早期退院ができるよう情報交換や相談を行い、出来るだけ退院前カンファレンスに参加し、連携を図るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取り介護指針を定め、重度化してこられた際には、早い段階で医療職員を交え終末期に向けた話し合いを行っている。また、終末期にはご本人、ご家族の希望に添ったターミナルケアが行えるよう、訪問看護、かかりつけ医との連携を密にして取り組み、ご家族との連絡も密にとり、必要に応じて何度でも話し合いの場を設けている。	重度化に伴う医療に関しては、医師・訪問看護師による24時間連絡体制が確保され、事業所は終末期・看取り介護の方針を定め支援に取り組んでいる。必要時、話し合いを繰り返し、可能な限り本人と家族の要望にそえるようターミナル時もチームで支援体制に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所内で勉強会を行い、急変時に対応できる実践力を身につけるよう努めている。また、緊急時連絡マニュアルを備え、全職員が把握している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	デイサービスとの合同火災訓練や近隣住民を交えて消防署立会いの火災訓練を行っている。また運営推進会議を通じご利用者の状況をご理解していただき、火災時等のご協力をお願いしている。水害時には2階へ避難するようにしている。令和2年度は避難訓練の問題を基に個別に避難の仕方等を伝えている。	同敷地内のデイサービスと共に、様々な災害・夜間を想定し年2回、消防避難訓練を行っている。日程を運営推進会議開催に合わせ地域の方々が参加し易くしており、協力体制を築いている。有事に備え職員は、写真入りの分かりやすい「行動手順」を作成し、実践に繋がるように平素からスタッフに浸透させている取り組みがある。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者個々の人格を尊重し、その方に合った声かけ、対応を行い、プライバシーを傷付けないよう尊厳をもってケアにあたっている。また、勉強会やミーティングにおいて話し合い職員の意識統一、向上を図っている。コロナウイルス流行の為、令和2年2月からはご利用者一人ひとりの気をつけているポイントをまとめ、文章で伝えている。	内外部の研修に参加し人格の尊重に関しての研鑽を続けている。一人ひとりの大切な生活歴を知り、人格やプライバシーを損なわない対応について日々、配慮しており、定期的なミーティング時や勉強会で管理者中心に具体的に振り返りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者が日々の生活、会話の中で思いや希望が表せるような声掛け、対応をしている。また、職員はご利用者の言葉やしぐさ、表情から思いをくみとるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者お一人おひとりの生活歴や習慣、性格を把握し、その方のペースを大切にして支援している。また、その日、その時の体調や状態、ニーズに合わせた対応を行うよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その方の好みや思いを尊重し、おしゃれやその方らしい身だしなみができるよう配慮している。ネイルを好まれる方には定期的にネイルを行っている。季節に合わせてその方らしく過ごしていただけるよう努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の能力に合わせて職員と一緒に準備や片付けを行っている。職員もご利用者と同じものを一緒に食べ、和やかな時間が過ごせるよう配慮している。時に収穫した野菜をご利用者の要望に合わせて提供するなど、楽しく食事ができるよう支援していたが、コロナウイルス流行に伴い、同席者を少なくし、ご利用者一人ひとりが出来るだけ向かい合わないよう配慮している。職員は1人ひとり離れた場所で食事をしている。	法人の管理栄養士による献立・真空低温調理法に加え、シェフによる優しい味付けの食事が提供されている。畑で採れた白菜やネギなどを食材とする事もある。 (現在は自粛中であるが、机を拭く、箸を並べる、盆を運ぶなど)エプロンを付けた利用者同士が役割を分担し連携しながら、食事準備や片づけを行っている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>個々の状態、好みに合わせて食事形態や量、飲み物など工夫して提供している。嚥下困難な方には好みに合った飲み込みやすい物を提供している。また、栄養管理を法人の管理栄養士が行っている。飲み込みが難しくなるなどの変化がある時は管理栄養士に相談し、アドバイスを受けている。退院時の食事形態を病院で確認し、言語療法士の指導を受けることもある。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後に各居室の洗面台にて、個々の能力、状態に合わせた口腔ケアを行っている。また、歯科往診で口腔ケアを受けておられる方もいる。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の状態に合わせた下着、排泄用品を使用しながら排泄リズムを把握して、それぞれの状態、能力に合わせてトイレ誘導、見守りを行い可能な限りトイレでの排泄を促している。排泄用品は過度な使用とならないよう配慮している。</p>	<p>記録表は、一人ひとりの排泄パターンを把握しやすい書式となっている。各居室にトイレが設置されている事もあり、声掛けなどプライドを損なうことなくトイレ誘導や介助を行っている。個々における適切な下着について職員間で話し合いを繰り返し、布下着だけに移行した例も多々あり、個別の支援がなされている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>個々の排便周期や水分摂取量を把握し、ヨーグルトや寒天ゼリー、果物などその方に合う飲食物を提供したり、腹部マッサージや体操、レクリエーションを行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>毎日随時入浴できるようにしており、ご利用者のその日の状態や希望、気分に合わせて対応している。また、一人ずつゆったりと楽しく入浴していただき、個々の状態に合わせて援助している。コロナウイルス感染予防の為職員は入浴介助時もマスクを使用している。</p>	<p>週2～3回、自由にお一人ずつゆったりと入浴を楽しめるように支援がなされている。時にはミカンの皮・アロマ・入浴剤にて香りを楽しんでいる。個々の状態に合わせて、手浴・足浴・清拭にて身体清潔を保っている。職員は入浴介助時にはクールマスクを着用し感染予防にも配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>個々の状態や習慣、その日の調子に合わせた声掛けなどを行い、不安混乱がある場合はゆっくりお話を伺ったり、温かい飲み物を提供するなどして良眠できるよう支援している。また、一日を通し個々の体力や状態に合わせて休息を提供している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>職員は各ご利用者の服薬状況を把握しており、薬の変更や状態変化等があった場合はケース記録や連絡ノート、申し送りにて情報共有している。また、症状や体調の変化を随時訪問看護やかかりつけ医に連絡し連携をとっている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>ご利用者お一人おひとりの能力やニーズ、状態に合わせて役割を持っていただき、家事活動など行っている。また、それぞれのニーズや状態に合わせて行う園芸やレクリエーション、行事、ドライブ等を通して気分転換していただき生活に楽しみが持てるよう支援していたが、コロナウイルス流行の為、令和2年2月からは外出や交流を中止し、個別で役割や楽しみをもっていただいている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>お一人おひとりの希望にそって随時外出していただけるようにしており、個々の状態、ニーズに合わせて散歩やドライブの支援を行っている。また、計画を立てての外出やその日の希望に合わせて職員との買い物などを実施している。ご家族の協力を得て、ご家族との外出も実施していたが、コロナウイルス流行の為、令和2年2月からは外出や交流を中止している。</p>	<p>毎日の散歩や希望にそった多様な外出支援、また家族との楽しみな外出機会はコロナ禍のため、現在は自粛中である。敷地内の広い畑や庭にベンチを置き、2階は整備されたテラスにてお茶や会話を楽しみながら外気に触れるなどの工夫に取り組んでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>職員はご利用者がお金を持つことの大切さや安心感を理解しており、ご本人の希望に応じてご家族と相談の上、所持していただいている。買い物などの希望があれば随時出かけられるよう支援しているが、コロナウイルス流行の為、令和2年2月からは外出を中止している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望があればいつでも自由にご家族や知人へ電話がかけられるようにしており、使用方法が分からない時は必要な援助を行っている。また、ニーズがあれば手紙のやり取りにおいても必要な援助を行っている。コロナウイルス流行の為、絵手紙を作成し、ご家族へ送付した。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング、廊下、台所など共有スペースはゆとりある空間となっており、自然光や風が入る大きな窓などご利用者が快適に過ごせるよう環境に配慮している。リビングの窓際には室内花壇があり、植物を育て、楽しむスペースがある。また、季節を感じられる作品を掲示するなどの工夫を行いソファを設置してご利用者同士がくつろぎやすい居場所作りをするなど配慮している。	自然光を心地よく取り入れ明るいスペースとなっている。現在は換気に配慮しつつ床暖やレッグウォーマー着用にて暖かくなるよう空調を調節している。室内花壇には自分が世話していた鉢を置き安らぐ空間にもなっている。見えない方が好ましいコーナーには仕切りを設置するなど、常に利用者の目線で環境づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにソファや畳間を設置し、ご利用者同士が自由にゆったりと過ごしていただけるような空間を作っている。また、ご利用者がお一人で過ごしたいときなどには職員が配慮して思い思いに過ごせるよう援助したり、時に職員とゆったり過ごすなどしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にご家族の写真や作成した作品を飾り、ご利用者が居心地良く過ごせるようにしている。また、家具やテレビ、必要な使い慣れた物を持ち込むことも可能としており、ご本人やご家族と相談しながらその都度過ごしやすい環境作りを行い、安心して生活できるよう工夫している。	和室と洋室がある。カーテンやトイレ洗面所の壁紙などが各居室によって異なり、画一的ではない居室が準備されている。同法人のリハビリ部門から、ベット向きなどの助言を得、馴染みの物(ソファ、ドレッサー、家族写真、自作の作品など)を置き、居心地よく過ごせるよう支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレの手すりなど高齢者の状態に合わせ、台所もご利用者が家事をしやすい作りとなっており、安全で自立した生活が送れるよう支援している。また、居室においても個々の状態に応じて相談の上、タンスやベッド等の位置を変えたりと、ご利用者が過ごしやすい環境作りを行っている。		

V アウトカム項目(1ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念「3 Yのこころ」よるこび、やすらぎ、豊かさ、また事業所スローガン「お一人おひとりの思い、生活リズムを大切に安心した生活を提供します。」を、ミーティング等で共有し、職員の意識統一を図り日常のケアを行っている。コロナウイルス流行に伴い、令和2年2月からは個別に提案を聞く機会を持っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に入り、川掃除等の地域活動に参加している。定期的に地域交流会を行い、ご利用者、地域の方、職員で千羽鶴を折り平和公園へ寄贈した。銭太鼓の創作活動、お茶会を実施し交流を図っていたが、コロナウイルス流行に伴い、令和2年1月からは実施できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議において認知症の方の理解や支援の方法をとりあげている。また、近隣の保育園や地域の方々、ボランティアとの交流を持ち、認知症の方たちとふれあう機会を作っていたが、コロナウイルス流行に伴い、令和2年1月からは実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、グループホームの取組みやご利用者の状況を報告している。また構成員からいただいた意見をミーティング等で話し合い、サービスの向上に活かすよう努めている。コロナウイルス流行に伴い、令和2年3月からは電話で地域の様子等を確認し、書類でグループホーム内の様子等を報告し、9月から会議を再開している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者や地域包括支援センター職員に運営推進会議に参加いただいている。また、行政が実施する研修を受け入れている。令和2年度はコロナウイルス流行のため研修受入は行っていない。包括支援センターとは2ヶ月に1度連絡し地域の様子等を確認し、書類でグループホーム内の様子等を報告している。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内で勉強会を通し身体拘束について学んでいる。職員で話し合い、理解、意識統一を図り身体拘束のないケアを実施している。令和2年2月からはコロナウイルス流行の為、合同のミーティングは行っていない。個別に提案を聞く機会を持ち、必要なことを書面等で全職員に伝えるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内での勉強会を通し虐待について学んでいる。話し合いの場を持ち、職員への意識付けを行い、意識の向上、ケアの質の向上に努めている。令和2年2月からはコロナウイルス流行の為、合同のミーティングは行っていない。個別に提案を聞く機会を持ち、必要なことを書面等で全職員に伝えるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所内での勉強会を通し権利擁護に関する制度、成年後見制度について学んでいる。話し合いの場を持ち、職員の理解を深めている。令和2年2月からはコロナウイルス流行の為、合同のミーティングは行っていない。個別に提案を聞く機会を持ち必要なことを書面等で全職員に伝えるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご入居前に事前面接を行い、ご本人、ご家族と十分に話し合い納得のうえ契約をしている。また、解約時や制度の改正時などは丁寧に説明し、理解、納得をしていただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	法人内に苦情・要望検討委員会を設置しており、ご家族様に満足度アンケートを実施し、結果を運営に活かしている。また、事業所に入りに意見箱を設置し、ご意見が言えるよう声かけしている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1階2階合同のミーティングを実施し職員の意見交換や提案を話し合う機会を設け、運営やケアに活かしていたが、令和2年2月からはコロナウイルス流行の為、合同のミーティングは行っていない。個別に提案を聞く機会を持っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度を取り入れ職員一人ひとりが目標、役割を持ち、やりがいを感じて働けるよう環境作りに努めている。また、目標面接を行い、職員個々の勤務状況の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内に研修制度があり、全職員対象のものや等級や経験年数に合わせた研修を受ける機会を設けている。また、法人外の研修を受ける機会を設け、経験に合わせて受講をすすめるなどしている。令和2年度はコロナウイルス流行の為、大勢が集まる研修には参加しないようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内での職員研修の場などを活用して、他事業所との情報交換を行い、サービスの向上に努めている。また、同業者が参加する研修会に参加し情報交換をしている。令和2年度はコロナウイルス流行の為、大勢が集まる会には参加しないようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用開始前の事前面接でご本人の意向、不安等をお聞きし、個人に合わせたプランを作成して安心感を持っていただけるよう努めている。また、生活歴や生活習慣等をお聞きし、ケアに反映しその方らしい生活が継続できるよう努めている。事前面接は出来るだけ2人で行き、顔見知りになり、入所時に少しでも安心感を持っていただけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>サービス利用開始前に事前面談を実施し、ご家族の不安や要望をお聞きし、安心していただけるよう努めている。また、ご家族とこまめに情報交換を行い、ご利用者を共に支えていく関係作りに努めている。必要に応じて利用しているサービス事業者と一緒に自宅を訪問し、家族、他事業者と共に入所に向けて話し合いを行っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>サービス利用を開始する段階で、十分に話し合い、状況に応じてサービスが受けられるよう他事業所とも連携をとり、安心して必要なサービスが受けられるよう努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日々ご利用者と同じ目線に立つよう心がけ、共感できるケアに努めている。また、生活の中でいろいろな活動を共にしたり一緒にゆったりする時間をもち、ご利用者と職員のより良い関係作りに努めている。令和2年2月からはコロナウイルス流行のため個々で出来る活動をしていただいている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご本人とご家族の関係が継続できるよう働きかけ、サポートしている。また、ご家族と密に情報交換を行い共に支援できるよう努めている。家族交流会などの活動を実施し、三者の信頼関係の構築を図っていたが、令和2年2月からはコロナウイルス流行のため家族との交流が少なくなっている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>ご本人が大切にしてきたものや馴染みの物の情報収集を行い活用している。かかりつけ医や自宅などとの関係を継続し、ご家族や知人が面会に来やすいよう声かけや雰囲気作りに努めており、知人の面会がある。また、自宅の町内会に入られている方もおり、町内会長が尋ねて来られ、直接話しをされている。令和2年2月からはコロナウイルス流行のため家族との交流は少なくなり、知人の面会はガラス越しに行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の性格や認知症のレベルなどに配慮して、家事活動やレクリエーションを行い、より良い関係が築けるよう努めていたが、コロナウイルス流行の為、令和2年2月からは個別のレクリエーションを行うよう配慮している。また、時に職員がご利用者の間に入り、関係の構築や継続のサポートを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了された方や途中退所された方に対し適切なサービス情報を提供するなどの相談に応じている。また契約終了後も運営推進会議交流会等の行事に参加され、地域住民、ボランティアとして関係を継続しているご家族もいる。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者お一人おひとりの思い、意向に添うようコミュニケーションを図り、ケアに繋げている。会話が困難な方は表情やしぐさ、発語から様子を読み取っている。また、ご家族の意向を伺うなどしてケアに活かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面談時や契約時に生活習慣や生活歴等の情報を提供していただいている。また、関係サービス事業者から情報収集を行い、入居後もご本人やご家族との会話から、その方らしい生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	定期的にモニタリング、アセスメントを実施し、課題分析表や24時間シートを利用し、生活リズム、心身状態、残存機能の把握に努めケアに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画作成時やモニタリング時に関係職員やご本人ご家族と話し合いを行い、課題、意向を検討している。そこで得た情報を介護計画に反映させている。また、ご利用者の状態に合わせ随時カンファレンスを実施し、現状に合わせたプランの見直しを行っている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日勤帯、夜勤帯の職員が個別の記録を記入し、職員がその情報を共有できるようにしている。また、気づきや状態変化などを連絡ノートや申し送りを通じて職員間で伝達、共有し日々のケアや介護計画の作成、見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ご利用者、ご家族のニーズに合わせ外出や野外活動、その他のサービス等柔軟に対応している。また、法人内の他事業所や協力医院と連携を図り、可能な限りニーズに合わせた対応ができるよう努めている。令和2年2月からはコロナウイルス流行の為、外出は中止し、必要時には感染症に気をつけ、対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>近所を散歩したり、地域のスーパーを利用し馴染みの関係、環境を作っていくよう努めている。また、地域のボランティアや保育園との交流を図っていたが、コロナウイルス流行の為、令和2年2月からは外出や交流を中止している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご利用者、ご家族の希望に合わせて定期的にかかりつけ医の受診、往診を行っている。症状によってはかかりつけ医の紹介で適切な医療機関へ受診できるよう連携をとっている。また、法人ドクターの定期回診、訪問看護による定期健康チェックを行い協力関係を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	法人内の訪問看護と契約をして健康管理をうけている。また、状態の変化時や急変時など随時ご利用者の情報伝達、相談を行い、適切な助言や受診、看護が受けられるよう連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にご利用者、ご家族が安心して入院治療が受けられるよう医療機関に情報提供をしている。また、早期退院ができるよう情報交換や相談を行い、出来るだけ退院前カンファレンスに参加し、連携を図るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取り介護指針を定め、重度化してこられた際には、早い段階で医療職員を交え終末期に向けた話し合いを行っている。また、終末期にはご本人、ご家族の希望に添ったターミナルケアが行えるよう、訪問看護、かかりつけ医との連携を密にして取り組み、ご家族との連絡も密にとり、必要に応じて何度でも話し合いの場を設けている。かかりつけ医の密な協力のもと、癌末期の方の穏やかな看取りを行った。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所内で勉強会を行い、急変時に対応できる実践力を身につけるよう努めている。また、緊急時連絡マニュアルを備え、全職員が把握している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	デイサービスとの合同火災訓練や近隣住民を交えて消防署立会いの火災訓練を行っている。また運営推進会議を通じご利用者の状況をご理解していただき、火災時等のご協力をお願いしている。水害時には2階へ避難するようにしている。令和2年度は避難訓練の問題を基に個別に避難の仕方等を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者個々の人格を尊重し、その方に合った声かけ、対応を行い、プライバシーを傷付けないよう尊厳をもってケアにあたっている。また、勉強会やミーティングにおいて話し合い職員の意識統一、向上を図っている。コロナウイルス流行の為、令和2年2月からはご利用者一人ひとりの気をつけているポイントをまとめ、文章で伝えている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者が日々の生活、会話の中で思いや希望が表せるような声掛け、対応をしている。また、職員はご利用者の言葉やしぐさ、表情から思いをくみとるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者お一人おひとりの生活歴や習慣、性格を把握し、その方のペースを大切にして支援している。また、その日、その時の体調や状態、ニーズに合わせた対応を行うよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その方の好みや思いを尊重し、おしゃれやその方らしい身だしなみができるよう配慮している。また、会話が難しい方の好み、思いを把握した上で、状態、季節に合わせてその方らしく過ごしていただけるよう努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の能力に合わせて職員と一緒に準備や片付けを行っている。職員もご利用者と同じものを一緒に食べ、和やかな時間が過ごせるよう配慮している。時に収穫した野菜をご利用者の要望に合わせて提供するなど、楽しく食事ができるよう支援していたが、コロナウイルス流行に伴い、同席者を少なくし、ご利用者一人ひとりが出来るだけ向かい合わないよう配慮している。職員は1人ひとり離れた場所で食事をしている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>個々の状態、好みに合わせて食事形態や量、飲み物など工夫して提供している。嚥下困難な方には好みに合った飲み込みやすい物を提供している。また、栄養管理を法人の管理栄養士が行っている。飲み込みが難しくなるなどの変化がある時は管理栄養士に相談し、アドバイスを受けている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後に各居室の洗面台にて、個々の能力、状態に合わせた口腔ケアを行っている。また、定期的に歯科往診で口腔ケアを受けておられる方もいる。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の状態に合わせた下着、排泄用品を使用しながら排泄リズムを把握して、それぞれの状態、能力に合わせてトイレ誘導、見守りを行い可能な限りトイレでの排泄を促している。また、排泄用品の必要な方には状態に適したものを使用し、過度な使用とならないよう配慮している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>個々の排便周期を把握し、ヨーグルトや果物などその方に合う飲食物を提供したり、腹部マッサージや体操、レクリエーションを行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>毎日随時入浴できるようにしており、ご利用者のその日の状態や希望、気分に合わせて対応している。また、お一人ずつゆったりと楽しく入浴していただき、個々の状態に合わせて援助している。コロナウイルス感染予防の為職員は入浴介助時もマスクを使用している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の状態や習慣、その日の調子に合わせた声掛けなどを行い、不安混乱がある場合はゆっくりお話を伺ったり、温かい飲み物を提供するなどして良眠できるよう支援している。また、一日を通し個々の体力や状態に合わせて休息を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は各ご利用者の服薬状況を把握しており、薬の変更や状態変化等があった場合はケース記録や連絡ノート、申し送りにて情報共有している。また、症状や体調の変化を随時訪問看護やかかりつけ医に連絡し連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご利用者お一人おひとりの能力やニーズ、状態に合わせて役割を持っていただき、家事活動など行っている。また、それぞれのニーズや状態に合わせて行う園芸やレクリエーション、行事、ドライブ等を通して気分転換していただき生活に楽しみが持てるよう支援していたが、コロナウイルス流行の為、令和2年2月からは外出や交流を中止し、個別で役割や楽しみをもっていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お一人おひとりの希望にそって随時外出していただけるようにしており、個々の状態、ニーズに合わせて散歩やドライブの支援を行っている。また、計画を立てての外出やその日の希望に合わせて職員との買い物などを実施している。ご家族の協力を得て、ご家族との外出も実施していたが、コロナウイルス流行の為、令和2年2月からは外出や交流を中止している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	職員はご利用者がお金を持つことの大切さや安心感を理解しており、ご本人の希望に応じてご家族と相談の上、所持していただいている。買い物などの希望があれば随時出かけられるよう支援しているが、コロナウイルス流行の為、令和2年2月からは外出を中止している。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望があればいつでも自由にご家族や知人へ電話がかけられるようにしており、使用方法が分からない時は必要な援助を行っている。また、ニーズがあれば手紙のやり取りにおいても必要な援助を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング、廊下、台所など共有スペースはゆとりある空間となっており、自然光や風が入る大きな窓など利用者が快適に過ごせるよう環境に配慮している。リビングの窓際には室内花壇があり、植物を育て、楽しむスペースがある。また、季節を感じられる作品を掲示するなどの工夫を行いソファを設置してご利用者同士がくつろぎやすい居場所作りをするなど配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにソファや畳間を設置し、ご利用者同士が自由にゆったりと過ごしていただけるような空間を作っている。また、ご利用者がお一人で過ごしたいときなどには職員が配慮して思い思いに過ごせるよう援助したり、時に職員とゆったり過ごすなどしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にご家族の写真や作成した作品を飾り、ご利用者が居心地良く過ごせるようにしている。また、家具やテレビ、必要な使い慣れた物を持ち込むことも可能としており、ご本人やご家族と相談しながらその都度過ごしやすい環境作りを行い、安心して生活できるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレの手すりなど高齢者の状態に合わせ、台所もご利用者が家事をしやすい作りとなっており、安全で自立した生活が送れるよう支援している。また、居室においても個々の状態に応じて相談の上、タンスやベッド等の位置を変えたりと、ご利用者が過ごしやすい環境作りを行っている。		

V アウトカム項目(2ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームダーラナやの・くにくさ

作成日 令和3年1月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	地域運営推進会議のメンバーが固定化している。また、参加者が少なくなっている。	専門職や住宅地ならではの方への参加を呼びかける。また、ご家族の関心が増すよう案内と報告を行う。	地域運営推進会議内で勉強会や興味を持てる内容を計画し、案内する。	令和3年1月～令和3年1月2月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。